

● ● 議長 の 四 季 報 ● ●

- 1 月 3 日 成人式に出席
- 6 日 式根島消防団及び新島消防団の消防出初式に出席
- 7 日 新島警察署武道始式に出席
- 1 1 日 賀詞交換並びに表敬に都庁を訪問
- 2 9 日 東京都市町村公務災害補償等組合役員会に出席
- 2 月 6 日 全国町村議長会総会に出席
- 1 5 日 東京都町村議長会総会に出席
- 1 6 日 東京都島嶼議長会・島嶼町村一部事務組合会議に出席
- 2 8 日 議会運営委員会
- 3 月 3 日 都立新島高等学校卒業式に出席
- 6 日 平成 3 0 年新島村議会第 1 回定例会開催（2 6 日まで）
- 1 6 日 中学校卒業式に出席
- 2 2 日 小学校卒業式に出席

編集 後 記

まず前号（第83号）の記事の一部に事実と異なる事項がありましたのでお詫びして訂正いたします。「公共施設再見」の13ページ、15行目「……屋外に囲炉裏を設けて……」の件。すでにこのような設備は施設正面、玄関横にありました。関係者のみなさまには深くお詫びいたします。

なおこれによって記事の趣旨が変わることはありませんのでご了承願います。またこの記事に掲載されている写真は平成29年3月に撮影されたものです。

作家の松井今朝子の師である武智鉄二との交流を描いた「師父の遺言」、興味深く読み終えた。芸術に關係する人たちの生懸というか仕事に対する姿勢には妥協を許さないものがあり、感心した。

それはともかくとしてこの本の中で私たちにも通じるな、と思ったことを一言。作者が学業に見切りをつけて社会人として踏み出した頃のこと。興業会社の松竹に入りプロデューサーの経験もある上司と各劇場を見て回っていた。歌舞伎は古典

と新作を演目としている。限られたけいこ時間で、古典だけで観客は十分満足しているのにとどいて不人気な新作もやるのか上司に質した。すると「新作をやらないうで誰かに習った芝居ばかりやっていると自分で考えて工夫することをしなくなる。そうなたら役者はおしまいだ」

なるほど確かにこれは芝居だけでなく私たちの仕事にも通じる。特に本紙の場合、読まれようが読まれまいが私たちの腹は痛まない。このことに無自覚でいると、単に形だけのものになってしまい、いずれ住民からはそっぽを向かれてしまう。

やはり常に自分自身と向き合い、これでいいのか、住民は関心を持ってくれるのか、新しい切り口はないのか、自問自答しながらもちろん他人の意見も聞いてよりよくしていかなければならない。ややもすると時間に追われて柁目を埋めることで満足してしまいがちだが、改めて心して掛かることを教えられた次第。

● 広報編集委員長 山本 均